

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ㊦＝指導上の留意点・活用資料
第1部 1章 公共的な空間をつくる私たち					[章の問い] 私たちが公共的な空間で自分らしく生きていくためには、どのようなことが重要なのだろうか。	①みずからの体験などを振り返ることを通して、みずからを成長させる人間としてのあり方・生き方について理解している。 ①人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通して、みずからの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解している。 ①自分自身が、自主的によりよい公共的な空間をつくり出していこうとする自立した主体になることが、みずからのキャリア形成と共によりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。 ②社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間をつくる存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1学期	4	1	p.10-11	1 「大人」へ向かう私たち	私たちは、公共的な空間のなかで自分自身のあり方とどう向き合えばよいのだろうか。	①青年期の発達課題について、その特徴を考察するための知識を理解し、身につけている。 ②青年期を理解する資料を収集し、青年期の特徴についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.24-25「幸福に生きるためには何が重要か？」などを活用し、青年期を意識させるよう指導する。
1学期	4	2	p.12-13	2 悩みと向き合うためのヒント	私たちが抱える悩みを解決するには、どのような方法があるのだろうか。	①適応のしくみについて、悩みを合理的に解決するための知識を理解し、身につけている。 ②悩みと向き合う資料を収集し、合理的に解決する方法についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.22-23「『私』ってどんな人間？」などを活用し、みずからの可能性について考えさせるよう指導する。
1学期	4	3	p.14-15	3 多様な個性が存在する社会	私たちは、さまざまな個性が存在する社会を生きるうえで、どのようなことを心がければよいのだろうか。	①豊かな人間関係を構築するために必要な知識を理解し、身につけている。 ②男女共同参画社会の資料を収集し、両性の本質的平等の現状についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.69「同性婚は法的に認められるべきか？」などを活用し、多様な性による多様性豊かな社会の実現について考えさせるよう指導する。
1学期	4	4	p.16-17	4 私たちの社会に息づく宗教	私たちは、多様な宗教や思想と共生していくために、どのようなことができるのだろうか。	①宗教が人々に与えているものを理解するために必要な知識を理解し、身につけている。 ②人々の生活と宗教の関わりの資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦宗教のもつ多様な面を紹介しながら、特定の宗教を取り上げすぎないように指導する。また、日本の思想の進展を学ぶにあたって、項目の羅列に終始しないようにする。
1学期	4	5	p.18-19	5 私たちの生活と日本の伝統・文化	私たちは、新しい文化の創造に向けて、日本の伝統や文化とどのように向き合っていけばよいのだろうか。	①文化の継承や創造、発信について、その特色に対応できる知識を理解し、身につけている。 ②日本特有の文化や伝統の資料を収集し、日本の伝統や文化の多様性、その継承と展開についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.192導入「和食の食材はどこから来ている？」や、p.200-201「グローバル化と自由貿易協定」などとの関連を意識したうえで、第3部の課題探究学習につながるよう指導する。
1学期	4	6	p.20-21	6 社会をつくる私たち	私たちは、よりよい公共的な空間をつくるために、どのようなことができるのだろうか。	①社会参画と自己実現について、その関係を考察するための知識を理解し、身につけている。 ②社会との関わり方を知る資料を収集し、働くことの意義や職業選択についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.24-25「幸福に生きるためには何が重要か？」などを活用し、自己実現の観点からキャリア意識を高めさせるよう指導する。
第1部 2章 公共的な空間における人間としてのあり方・生き方					[章の問い] 私たちが生きる公共的な空間をよりよくするためには、何に注目して選択・判断していけばよいのだろうか。	①選択・判断の手がかりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ①現代の諸課題についてみずからも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としてのあり方・生き方について探求することが、よりよく生きていくうえで重要であることについて理解する。 ①人間としてのあり方・生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身につけている。 ②倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、みずからも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について、現代社会にみられる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1学期	5	7	p.26-27	1 よりよく生きるためのヒント	私たちは、実社会の課題とどのように向き合えばよいのだろうか。	①経済活動と自然環境との関係や、生命に関わる科学技術の進展と倫理的課題を理解している。 ②環境保護や生命倫理をめぐる課題に関する資料を収集し、みずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.36-37「人々の利益を環境保護よりも優先させてよいか？」やp.38-39「生命に優先順位をつけることは許されるか？」などを活用し、社会的な見方・考え方を習得できるよう指導する。
1学期	5	8	p.28-29	2 幸福と正義の考え方	私たちは、よりよく生きるために、幸福や正義をどのように実現していけばよいのだろうか。	①先哲の思想を現代社会で生きる立場から考察するために必要な知識を理解し、身につけている。 ②生きることに関する資料を収集し、よりよく生きることについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦導入「『正義』を実現するケーキの分け方は？」などを活用し、幸福と正義のあり方について関心を高めることができるよう指導する。
1学期	5	9	p.30-31	3 動機と結果の考え方	私たちは、公共的な空間をよりよくしていくために、どのような判断基準で行動すればよいのだろうか。	①社会についてのさまざまな判断基準に関わる近代西洋の思想についての知識を身につけている。 ②先哲の考え方を活用して具体的な事例についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.36-37「人々の利益を環境保護よりも優先させてよいか？」などを活用し、功利主義や義務論の立場の考え方を体験的に学習できるよう指導する。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ④＝指導上の留意点・活用資料
1学期	5	10	p.32-33	4 他者と共に生きる倫理	私たちは、格差を是正しよりよい社会をつくるうえで、どのようなことを意識すればよいのだろうか。	①他者と共に生きることにについて考察するために必要な現代思想の知識を理解し、身につけている。 ②他者と共に生きることや公正と正義に関する資料を収集し、みずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④p.164-165「政府の役割と財政の機能」やp.204-205「経済格差の是正」などの学習に活用できるような概念を習得できるよう指導する。
第1部 3章 公共的な空間における基本的原理					[章の問い] 私たちの社会の基盤となる基本的原理は、憲法にどのように生かされているのだろうか。	①各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間をつくるうえで必要であることについて理解している。 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。 ②公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会にみられる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1学期	5	11	p.40-41	1 近代憲法に流れる考え方	私たちが生きる公共的な空間における基本的原理とは、どのようなものなのだろうか。	①近代立憲主義の考え方の基本的な理解を踏まえ、国民主権、基本的人権の尊重、権力分立、法の支配など、近代憲法を構成する諸原則に関する知識を身につけている。 ②近代立憲主義の考え方をを用いて、国づくりにおける憲法制定の重要性などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④p.42-43「多数決のジレンマと近代立憲主義の意義」や現実社会の多数決事例の資料などを活用し、合意形成の際の配慮事項等について関心を高めることができるよう指導する。
1学期	5	12	p.44-45	2 日本国憲法に生きる基本的原理	大日本帝国憲法に代わり日本国憲法が成立したことで、どのように基本的原理が実現されたのだろうか。	①敗戦から、GHQと日本政府による大日本帝国憲法の見直しに至る経緯についての基本的な理解を踏まえ、日本国憲法の基本原則に関する知識を身につけている。 ②最高法規としての憲法の位置づけに関する基本的な考え方をを用いて、憲法改正手続きの妥当性などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④導入「日本国憲法の特徴はどのような点にある？」などを活用し、日本国憲法の基本原則について関心を高めることができるよう指導する。
1学期	5	13	p.46-47	3 平等に生きる権利	私たちが平等に生きるために、日本国憲法にはどのような規定があるのだろうか。	①平等権と差別に関する基本的な理解を踏まえ、差別の現実と差別解消に向けた取り組みに関する知識を身につけている。 ②平等権に関する基本的な考え方にに基づき、現実社会の差別事例と差別解消の重要性などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④p.58-59「クオータ制を義務化するべきか？」や、形式的平等と実質的平等の違いに関する資料などを活用し、「平等」や「公正」に対する考え方を深めることができるよう指導する。
1学期	5	14	p.48-49	4 精神活動の自由に関する権利	私たちが自由に考え、表現することができるように、日本国憲法にはどのような規定があるのだろうか。	①精神的自由の重要性に関する基本的な理解を踏まえ、個々の権利の内容に関する知識を身につけている。 ②精神的自由に関する基本的な考え方をを用いて、主な訴訟や判例の妥当性などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④p.56-57「これSNSに投稿していい？」や、肖像権、名誉権、知的財産権に関する資料などを活用し、生活と人権の関わりについて関心を高めることができるよう指導する。
1学期	6	15	p.50-51	5 身体や経済活動の自由に関する権利	私たちが身体的、経済的に自由であるために、日本国憲法にはどのような規定があるのだろうか。	①身体的自由の重要性、および経済的自由の重要性とその制約に関する基本的な理解を踏まえ、個々の権利の内容に関する知識を身につけている。 ②身体的自由、経済的自由に関する基本的な考え方をを用いて、主な訴訟や判例の妥当性などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④図4「無罪判決を喜ぶ菅家利和さん」やColumn「薬事法違憲訴訟」などを活用し、人権保障の重要性に気づくことができるよう指導する。
1学期	6	16	p.52-53	6 より人間らしく生きる権利	私たちがより人間らしい生活を営むために、日本国憲法にはどのような規定があるのだろうか。	①社会権、国務請求権、参政権、国民の義務などに関する基本的な考え方の理解を踏まえ、個々の権利と義務の内容に関する知識を身につけている。 ②社会権、国務請求権、参政権に関する基本的な考え方をを用いて、権利保障をどこまで求めるべきかなどについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④Column「公務員の争議行為を認めるべきか？」や図6「公務員の労働三権」などを活用し、権利と義務の関係などについて関心を高めることができるよう指導する。
1学期	6	17	p.54-55	7 幸福を求める権利と広がる人権	私たちの社会をよりよくしていくためには、どのような権利が認められるとよいのだろうか。	①社会の変化と人権意識の高まりに関する基本的な理解を踏まえ、個々の新しい人権に関する知識を身につけている。 ②新しい人権に関する基本的な考え方をを用いて、人権保障と公共の福祉の関係などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④p.27「自分の羊を増やすべきか？『共有地の悲劇』」や現実社会の地球環境問題対策の事例などを活用し、協働の困難さと重要性に気づくことができるよう指導する。
1学期	6	18、19	p.60-61	部の振り返り 第1部 公共の扉		①公共的な空間における私たち、人間としてのあり方・生き方、公共的な空間における基本的原理などについて理解し、知識を身につけている。 ②公共的な空間における私たち、人間としてのあり方・生き方、公共的な空間における基本的原理の意義やそれを実現するうえでの課題などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ④個人と社会との関わりを多面的にとらえ、自立した主体としてみずからの生き方について考察できるよう指導する。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ㊦＝指導上の留意点・活用資料
第2部 1章 私たちと法					[章の問い] よりよい社会を形成していくために、法に関わる主体として私たちにはどのようなことができるのだろうか？	①法や規範の意義および役割、多様な契約および消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題をもとに、憲法の下、適正な手続きにのっとり、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。 ①現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。 ②自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実をもとに協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ③現実社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 1章 1節 法や規範の意義と役割					[節の問い] 私たちは、社会規範や法とどのように関わっていけばよいのだろうか。	①社会規範と法、私たちの生活と法などについて理解し、知識を身につけている。 ②社会規範と法、私たちの生活と法などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③社会規範と法、私たちの生活と法などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1学期	6	20	p.64-65	1 社会規範と法	私たちの社会には、どのような社会規範や法があるのだろうか。	①社会規範における法の特色に関する基本的な理解を踏まえ、法の種類や法の秩序に関する資料を活用して、社会における法の役割や機能に関する知識を身につけている。 ②法に基づき社会を形成するという基本的な考え方をを用いて、法の役割や限界などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.69「同性婚は法的に認められるべきか？」などを活用し、法の役割や限界についても関心を高めることができるよう指導する。
1学期	6	21	p.66-67	2 私たちの生活と法	私たちの生活において、法はどのような役割を果たしているのだろうか。	①日常生活と法に関する基本的な理解を踏まえ、図3「人生のさまざまな場面と法律」やColumn「法律を作ってみよう」を活用して、身の回りの法の役割に関する知識を身につけている。 ②法は単に義務や罰を定めるものではないという基本的な考え方に基づいて、日常における法のあり方についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.68「交通事故を起こしたら？」などを活用し、法の紛争解決機能について理解を深めることができるよう指導する。
第2部 1章 2節 契約と消費者の権利・責任					[節の問い] 私たちは、消費者としてどのようなことに注意して契約を結べばよいのだろうか。	①契約の考え方、消費者の権利と責任などについて理解し、知識を身につけている。 ②契約の考え方、消費者の権利と責任などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③契約の考え方、消費者の権利と責任などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1学期	7	22	p.70-71	1 契約の考え方	私たちには、契約を結ぶことによって、どのような権利と義務が生じるのだろうか。	①所有権や契約に関する基本的な理解を踏まえ、契約の成立や解除などの資料を活用して、法的な権利と責任に関する知識を身につけている。 ②契約の原則と例外に関する基本的な考え方をを用いて、契約をめぐるトラブル事例などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.74「契約する前に知っておくべきことは？」などを活用し、契約自由の原則と例外など私法に関する基本的な考え方を身につけることができるよう指導する。
1学期	7	23	p.72-73	2 消費者の権利と責任	私たちは、消費者問題にどのように対処していけばよいのだろうか。	①消費者問題に関する基本的な理解を踏まえ、過去の問題事例とその対処法などの資料を活用して、消費者の権利と責任に関する知識を身につけている。 ②消費者問題の背景にある情報の非対称性などの基本的な考え方をを用いて、あるべき消費活動の姿についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.75「意図しない定期購入は解約できるか？」などを活用し、消費者契約の重要性について関心を高めることができるよう指導する。
第2部 1章 3節 司法参加の意義					[節の問い] 私たちは、よりよい司法制度を実現するためにどのようなことができるのだろうか。	①司法の役割、刑事裁判とその課題などについて理解し、知識を身につけている。 ②司法の役割、刑事裁判とその課題などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③司法の役割、刑事裁判などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1学期	7	24	p.76-77	1 司法の役割	私たちの権利は、司法の働きによってどのように保障されているのだろうか。	①司法権の位置づけや三審制に関する基本的な理解を踏まえ、裁判の流れや傍聴手続きの実際に関する資料を活用して、司法に関する知識を身につけている。 ②司法権の独立などの基本的な考え方をを用いて、違憲審査のあり方についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.82-83「死刑制度は続けるべきか？」などを活用し、重大な判断を下すための三審制や司法権の独立の意義について深く理解できるよう指導する。
1学期	7	25	p.78-79	2 刑事裁判とその課題	私たちは、日本の司法制度の課題にどのように関わっていけばよいのだろうか。	①刑事裁判に関する基本的な理解を踏まえ、導入「逮捕状は適正に発行されている？」や図7「主な国の法曹人口」などを活用して、刑事裁判の課題などに関する知識を身につけている。 ②推定無罪の原則などの考え方をを用いて、刑事手続の問題点と解決策についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.80-81「裁判員裁判はどのように行われる？」などを活用し、刑事手続と人権保障や国民の司法参加のあり方について考察できるよう指導する。
1学期	7	26、27	p.84-85	章の振り返り 第2部1章 私たちと法		①法の規範の意義と役割、契約と消費者の権利・責任、司法参加の意義などについて理解し、知識を身につけている。 ②法の規範の意義と役割、契約と消費者の権利・責任、司法参加の意義などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦法との関わりがあり解決が求められる諸課題への関心を高め、第3部の課題探究学習につながるよう指導する。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ㊦＝指導上の留意点・活用資料
第2部 2章 私たちと政治					[章の問い] よりよい社会を形成していくために、政治に関わる主体として私たちにどのようなことができるのだろうか？	①政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事柄や課題をもとに、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 ①現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。 ②自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実をもとに協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ③現実社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 2章 1節 政治の役割と政治参加					[節の問い] 私たちが政治に関わると、社会はどのように変わるのだろうか。	①政治と権力、議院内閣制と国会、権力分立と行政の役割、地方自治の役割、政党政治とメディアなどについて理解し、知識を身につけている。 ②政治と権力、議院内閣制と国会、権力分立と行政の役割、地方自治の役割、政党政治とメディアなどについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③政治と権力、議院内閣制と国会、権力分立と行政の役割、地方自治の役割、政党政治とメディアなどに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
2学期	9	28	p.88-89	1 政治と権力	私たちは、なぜ政治に参加する必要があるのだろうか。	①政治の定義を踏まえ、法の支配の原理を活用して、代表民主制と国民主権について考察するための知識を理解し、身につけている。 ②代表民主制の考えに基づき、政治的無関心や政治への参加についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦Column「強い権力は必要か？～緊急事態条項について考える～」などを活用し、緊急事態条項等、政治の世界においても絶対的な正義は存在しないことに気づきながら、政治権力がどのように使われることが最善であるかについて考察できるよう指導する。
2学期	9	29	p.90-91	2 議院内閣制と国会	私たちにあって、国会はどのような存在なのだろうか。	①議院内閣制の考え方の上にとって日本の国会のしくみ、法律の制定、二院制の特徴を三権の関係のなかで考察するための知識を理解し、身につけている。 ②国会のルールに基づいて国会の課題とその対応について理解し、どのように改善したらよいかについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦図2「議院内閣制のしくみ」などを活用し、議院内閣制のしくみを、国民（主権者）、国会、内閣、それぞれの視点から、その特徴について気づかせるとともに、国会における審議・議決のしくみのよい点や改善すべき点（問題点）などについて気づくことができるよう指導する。
2学期	9	30	p.92-94	3 権力分立と行政の役割	私たちにあって、行政(内閣)はどのような役割を果たしているのだろうか。	①権力分立の考え方を踏まえ、行政のしくみと活動についての知識を理解し、身につけている。また、行政の課題について改善点を考察するための知識を理解し、身につけている。 ②行政のしくみや活動について理解し、しくみが機能していることへの評価や問題点についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.90図2「議院内閣制のしくみ」やp.95図3「アメリカの政治体制」などを活用し、行政権の行使のしくみについてさまざまな対応があることに気づき、民主主義を適切に成立させるしくみについて考えることの大切さを意識できるよう指導する。
2学期	9	31	p.96-97	4 地方自治の役割	私たちは、地方自治にどのように関わっていけばよいのだろうか。	①地方自治の本旨に関する理解の上にとって団体自治と住民自治の定義を活用し、住民の政治参加のあり方を通して地方自治の課題を指摘し、対策を考察するために必要な知識を身につけている。 ②地方自治体の歳入の資料を用いて、地方自治と国政の違いや、地方自治体が取り組むべき業務についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦図4「地方自治のしくみ」などを活用し、地方自治における住民の政治参加について、その特徴やしくみ、国政との違いに気づくよう指導する。また、p.21Column「よりよい社会づくりに参画する高校生」の事例も、地方自治への参画の例として活用したい。
2学期	9	32	p.98-99	5 政党政治とメディア	私たちの意見は、どのように政治に影響を与えているのだろうか。	①政党の目的と役割を踏まえて、政党政治の課題について理解している。また、政党の活動と世論やメディアとの関わりを関連させて考察するために必要な知識を身につけている。 ②代表民主制における政党の役割をもとに、世論の形成に政党やメディアが果たす役割について考察し、多様な情報をどのように受け止めたらよいかについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦Column「フェイクニュースにだまされないように」やp.100-101「メディア・リテラシーを身につけるには？」などを活用し、多くの情報がメディアにあふれるなかで政治を評価し、世論を形成するには国民一人ひとりの判断力が必要となることを指導する。
2学期	9	33	p.102-103	6 国民の政治参加と選挙	私たちは、意見をより政治に反映するために、どのような制度を活用できるのだろうか。	①国民の政治参加にはさまざまな手段があることを理解したうえで、政治参加の権利（参政権）と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識を身につけている。 ②参政権を行使する適切な方法について思考し、現行制度の理解の上にとって、その制度の課題や民意を反映するためのしくみについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦参政権を保障するにあたり、実社会の状況に基づいた現実的なしくみを考えさせるとともに、民意の反映方法にはさまざまな方法や立場によって選択する考え方の種類があることに気づくよう指導する。 ㊦投票までの流れや判断方法については、p.104-105「投票先はどうやって選ぶ？」を活用する。
第2部 2章 2節 主権国家と国際政治					[節の問い] 私たちは、どのようなルールをもとに国際社会を形成していけばよいのだろうか。	①国家と国際法、日本の主権と領土、国際連合の役割と活動、人権保障の国際的な広がりなどについて理解し、知識を身につけている。 ②国家と国際法、日本の主権と領土、国際連合の役割と活動、人権保障の国際的な広がりなどについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③国家と国際法、日本の主権と領土、国際連合の役割と活動、人権保障の国際的な広がりなどに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ㊦＝指導上の留意点・活用資料
2学期	9	34	p.110-111	1 国家と国際法	私たちにとって、国家にはどのような役割があるのだろうか。	①国際社会における国家の主権を理解したうえで、主権国家間の国際法に基づく国際社会のあり方について、発展と調整の両面から特徴を指摘するために必要な知識を身につけている。 ②主権国家を成立させて自国の利益を実現する国際社会において、国内法と国際法の違いを踏まえながら、ナショナリズムを背景とした諸国家間の争いの解決方法についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦国際社会における主権国家の主張は、その国家における正義を表しており、一概に支持されたり否定されたりするものではないことを理解したうえで、日本も国際社会と協調しながら国益の確保に取り組んでいることを考察できるよう指導する。 ㊦p.118-119「内戦状態の国に国際社会は介入するべきか？」などを活用し、国家がもつ主権について多面的・多角的に考察できるよう指導する。
2学期	10	35	p.112-113	2 日本の主権と領土	私たちは、日本の領土をめぐる動きにどのように向き合う必要があるのだろうか。	①近代の国際法における領有権の定義を理解するとともに、日本の領土に係る歴史的経緯により、日本固有の領土について正しく理解し、生じている諸問題を解決する意志をもつことができている。 ②日本固有の領土を実効支配している諸外国に対し、国際法に違反することなく、日本の主張への理解を求め、解決へ導くにはどうすればよいかについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦日本固有の領土を実効支配したり、領有権を主張したりしている国家に対し、領有権の考えと日本の「固有の領土」であることの理解を、日本は平和と安全が確立されている状況において求め続けることができるよう指導する。
2学期	10	36	p.114-115	3 国際連合の役割と活動	私たちは、平和の実現のために、どのような国際組織をつくればよいのだろうか。	①国際連合の目的について、組織が発足した歴史的な背景や発足した組織が有効に機能している点や改善を進めなければならない点などを指摘し、今後取り組みを進めなければならない事柄について考察するために必要な知識を身につけている。 ②国際連合が成立してから今日に至るまでの組織の変遷や活動内容の変化を踏まえて、国際連合の課題を解決するための取り組みについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦国益を越えた人類益の実現を図る取り組みがあることに気づかせるとともに、その取り組みを行っているのは国益の実現を確保する主権国家である点に気づかせながら、国際社会の課題を解決するために必要な手立てについて考察させる。
2学期	10	37	p.116-117	4 人権保障の国際的な広がり	私たちは、世界の人々の人権を保障するためにどのような支援ができるのだろうか。	①人権の国際化の流れに関する基本的な理解を踏まえ、国際的な人権問題に関する知識を身につけている。 ②国際的な人権問題の解決に向けた基本的な考え方を踏まえて、国際社会からみた日本の人権問題などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦導入「難民を救うには？」などを活用し、難民の保護などについて関心を高めることができるよう指導する。
第2部 2章 3節 日本の安全保障と防衛					[節の問い] 私たちは、過熱する国際情勢のなかで、どのように平和と安全を保っていけばよいのだろうか。	①平和主義と日本の防衛政策、これからの日本の安全保障などについて理解し、知識を身につけている。 ②平和主義と日本の防衛政策、これからの日本の安全保障などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③平和主義と日本の防衛政策、これからの日本の安全保障などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
2学期	10	38	p.120-121	1 平和主義と日本の防衛政策	私たちは、どのように平和を保ってきたのだろうか。	①平和主義が誕生した歴史的背景と、日本国憲法に定められている平和主義の理解の上に立って、第二次世界大戦後の日本の防衛政策についての考察に必要な知識を身につけている。 ②平和を実現するためのさまざまな取り組みを憲法の平和主義に照らし合わせて考え、安全で平和な状態を維持拡大する立場から、今後取り組むべき事柄についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦平和主義の考え方を、言葉のうえでの解釈のみに終始することなく、国際情勢の変化のなかで、普遍的かつ実効性のある状況で展開する視点から考察できるよう指導する。
2学期	10	39	p.122-123	2 これからの日本の安全保障	私たちは、日本の平和と安全をどのように守っていけばよいのだろうか。	①現在の日本の安全と平和を構築している国際社会の枠組みや取り決めの理解の上に立って、国際社会のなかで日本が実現しようとしている外交に係る動向について考察するために必要な知識を身につけている。 ②日本の安全保障について、国際社会における日本の政治や経済のつながりの理解の上に立って、国際協調主義の下、日本のとるべき政策についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦図3「個別的自衛権と集団的自衛権」などを活用し、日本の国益を守るための集団的自衛権と国際社会の安全と平和を実現するための国際貢献に係る活動等、それぞれの活動の目的や意義が異なる点に気づき、今後の安全保障の適正なあり方について考察できるよう指導する。
第2部 2章 4節 国際社会の課題と日本の役割					[節の問い] 私たちは、国際的な課題の解決に向けて、どのような取り組みができるのだろうか。	①紛争とテロリズム、核兵器と軍縮の課題、国際協力と日本の役割などについて理解し、知識を身につけている。 ②紛争とテロリズム、核兵器と軍縮の課題、国際協力と日本の役割などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③紛争とテロリズム、核兵器と軍縮の課題、国際協力と日本の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
2学期	10	40	p.126-127	1 紛争とテロリズム	私たちが生きる現代社会で起こる紛争やテロには、どのような背景があるのだろうか。	①紛争やテロリズムが生じる原因について、複雑な事情が背景にあることを理解し、知識を身につけている。 ②紛争やテロリズムの背景の理解について理解し、これらの争いを防ぐにはどうしたらよいかについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.132-133「戦後の国際政治の変遷」などを活用して国際政治の変遷を踏まえながら、政治的な手法で解決を図る可能性がある紛争や対立等への向き合い方を考察するとともに、テロリズムについては手段そのものを認めてはならないことを確実に理解できるよう指導する。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ❸＝指導上の留意点・活用資料
2学期	10	41	p.128-129	2 核兵器と軍縮の課題	私たちは軍縮に向けて、どのような取り組みができるのだろうか。	①核兵器をはじめとする兵器の開発、保有、廃棄、抑止等、その扱いに係る考え方の理解の上に立って、自国が軍事的に優位に立つ政策が主張される国際社会における軍縮の必要性について考察するための知識を身につけている。 ②核兵器、生物兵器、化学兵器並びに地雷などの兵器を所有する考え方と禁止や削減について主導している考え方を比較、整理し、平和を確保するための取り組みについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ❸核兵器をはじめとする大量破壊兵器を所有している国家等がある現状に立って、兵器の開発や製造の阻止、使用の制限や禁止の実現の障害となっている国際社会の状況を理解させ、取り組むべき課題を考察できるよう指導する。
2学期	11	42	p.130-131	3 国際協力と日本の役割	私たちは、国際社会のなかでどのような役割を果たすべきなのだろうか。	①国際社会において実施されている国際連合などによる取り組みや日本政府の取り組みについて理解するとともに、今後、解決しなければならない課題が存在していることについて考察するための知識を身につけている。 ②国際協力における政策の目標と達成度について理解するとともに、それぞれの政策の課題や今後の国際協力のあり方についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ❸p.134-135「SDGsのどの目標から着手するとよいか？」などを活用し、国際協力として掲げた目標を実現するために必要な国家の政策や民間組織の施策、予算、人手、受け入れ国の理解と協力等、整えなければならない事柄について気づき、現実的かつ具体的に考察できるよう指導する。
2学期	11	43、44	p.136-137	章の振り返り 第2部2章 私たちと政治		①政治の役割と政治参加、主権国家と国際政治、日本の安全保障と防衛、国際社会の課題と日本の役割などについて理解し、知識を身につけている。 ②政治の役割と政治参加、主権国家と国際政治、日本の安全保障と防衛、国際社会の課題と日本の役割などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ❸政治との関わりがあり解決が求められる諸課題への関心を高め、第3部の課題探究学習につながるよう指導する。
第2部 3章 私たちと経済					[章の問い] よりよい社会を形成していくために、経済に関わる主体として私たちにはどのようなことができるのだろうか？	①市場経済の機能と限界、金融の働き、財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、雇用と労働問題、職業選択、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる現実社会の事柄や課題をもとに、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていることおよびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 ①現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。 ②自立した主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実をもとに協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ③現実社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
第2部 3章 1節 市場経済の機能と限界					[節の問い] 私たちは、持続可能な経済成長に向けて、どのような取り組みができるのだろうか。	①私たちの生活と経済のしくみ、市場経済のしくみ、企業の目的と役割、経済の変動などについて理解し、知識を身につけている。 ②私たちの生活と経済のしくみ、市場経済のしくみ、企業の目的と役割、経済の変動などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③私たちの生活と経済のしくみ、市場経済のしくみ、企業の目的と役割、経済の変動などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
2学期	11	45	p.140-141	1 私たちの生活と経済のしくみ	私たちの生活は、経済とどのように関わっているのだろうか。	①市場の働きや分業の考え方にに基づき、経済の循環などの資料を活用して、限りある資源を最適に配分するしくみや経済循環に関する知識を身につけている。 ②市場経済の考え方をういて、市場の働きや分業のあり方を理解し、その内容を説明できている。 ❸資源の希少性については必ず触れるようにする。図4「家計とは」や図5「経済の循環」などを活用して、経済社会の循環について理解を深めるよう指導する。
2学期	11	46	p.142-144	2 市場経済のしくみ	私たちにとって、市場にはどのような機能と限界があるのだろうか。	①市場経済に関する基本的な理解に基づき、市場経済の特徴である需要と供給の関係の資料を活用して、市場経済の機能とその限界に関する知識を身につけている。 ②市場経済は公正で自由な競争を促進しているという考え方をういて、その役割と限界についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ❸図5「需要と供給の均衡」や図6「需要曲線の移動」などを活用して市場の働きについて理解を深めるよう指導する。その際、「市場の失敗」は具体例を用いて指導する。また、p.145「政府の大きさをめぐる考え方」などを活用し、歴史的流れからも確認できるようにする。
2学期	11	47	p.146-147	3 企業の目的と役割	私たちの社会において、企業はどのような役割を果たしているのだろうか。	①企業活動と株式会社に関する基本的な理解に基づき、企業、株式会社、企業の責任に関する資料を活用して、株式会社のしくみと役割、社会的責任に関する知識を身につけている。 ②企業についての知識を用いて、企業のしくみ、活動について説明できている。また、企業活動の目的や責任についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ❸図5「株式会社のしくみの例」を活用したり、p.148-149「企業活動と資金調達」を参照したりすることで、株式会社のしくみとその役割について理解できるよう指導する。なお、企業の社会的責任については、具体的にどのような例があるかを考え、示すようにする。
2学期	11	48	p.150-151	4 経済の変動	私たちの生活は、経済の変動によってどのような影響を受けるのだろうか。	①GDP（国内総生産）と国富に関する基本的な理解に基づき、経済を測る指標の資料を活用して、景気変動と変動から生じる現象について必要な知識を身につけている。 ②景気変動とその影響について説明できている。また、持続的な経済成長を実現するために求められる取り組みについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ❸図7「消費者物価指数の推移」やColumn「身の回りの物価変動と経済への影響」などを活用し、物価と景気の関係について理解できるよう指導する。また、GDPの具体的な理解については、p.152-153「GDPの見方・考え方」を活用するよう促す。
第2部 3章 2節 金融の働き					[節の問い] 私たちの経済活動を活性化するために、金融分野でどのような取り組みができるのだろうか。	①金融の役割、中央銀行の役割と金融政策などについて理解し、知識を身につけている。 ②金融の役割、中央銀行の役割と金融政策などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③金融の役割、中央銀行の役割と金融政策などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ④＝指導上の留意点・活用資料
2学期	12	49	p.156-157	1 金融の役割	私たちの経済活動は、金融とどのように関わっているのだろうか。	①金融と通貨(貨幣)の働きに関する基本的な理解に基づき、金融市場や金融機関、フィンテックに関する資料を活用して、必要な知識を身につけている。 ②金融の役割についての知識を用いて、経済活動における金融の意義や新しい金融が与える影響についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③図3「金融における家計・企業・政府の関係」やp.160-161「将来のお金の計画をどう立てる？」などを活用し、金融の役割について理解を深めるように指導する。
2学期	12	50	p.158-159	2 中央銀行の役割と金融政策	私たちの社会において、中央銀行はどのような役割を果たしているのだろうか。	①日本銀行や金融制度に関する基本的な理解に基づき、日本銀行の役割、金融制度の変化に関する資料を活用して、必要な知識を身につけている。 ②日本銀行の役割についての知識を用いて、金融政策が社会に与える影響について説明できている。 ③図5「無担保コール翌日物の金利の推移」や図6「マネタリーベースとマネーストックの推移」などを活用し、近年の金融政策について理解を深めるよう指導する。
第2部 3章 3節 財政の役割と社会保障の課題					[節の問い] 私たちは、財政をどのように適切かつ持続的なものにしていけばよいのだろうか。	①政府の役割と財政の機能、日本の財政の課題、社会保障の役割と意義、社会保障制度の課題などについて理解し、知識を身につけている。 ②政府の役割と財政の機能、日本の財政の課題、社会保障の役割と意義、社会保障制度の課題などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③政府の役割と財政の機能、日本の財政の課題、社会保障の役割と意義などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
2学期	12	51	p.164-165	1 政府の役割と財政の機能	私たちの生活は、財政とどのように関わっているのだろうか。	①市場における政府の役割に関する基本的な理解に基づき、財政の機能、財政政策のしくみと経済に与える影響について、必要な知識を理解し、身につけている。 ②政府の役割と財政の機能、財政政策の基本的な考え方を用いて、財政政策の働きと課題について説明できている。また、景気の自動安定装置（ビルトイン・スタビライザー）について説明できている。 ③三つの財政の機能について、しっかりと理解できるよう指導する。また、図6「財政政策と景気の自動安定化装置」などを活用し、財政と景気の関係について理解できるよう指導する。
2学期	12	52	p.166-167	2 日本の財政の課題	私たちは、どのような財政の課題に直面しているのだろうか。	①財政や税制に関する基本的な理解に基づき、財政の歳入と歳出、税金の種類のグラフを活用して、財政や税制のしくみを理解し知識を身につけている。 ②財政や税制の基本的な考え方を用いて、財政や税制の現状と課題についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③図5「日本の公債残高の推移」や図7「直接税と間接税の国際比較」などを活用し、財政の課題と税のあり方について考察できるよう指導する。また、税金の使い方については納税者の立場から考えさせることに留意する。
3学期	1	53	p.168-169	3 社会保障の役割と意義	私たちにとって、社会保障制度はなぜ必要なのだろうか。	①社会保障制度に関する基本的な理解に基づいて、社会保障の歴史、役割、日本の社会保障制度のしくみを理解し、必要な知識を身につけている。 ②社会保障制度に関する知識を用いて、市場経済における社会保障制度の役割とその内容を説明できている。 ③図2「世界の社会保障制度の歴史」や図3「日本の社会保障制度の歴史」などを活用し、社会保障制度の歴史と役割について深く理解できるようにする。また、図4「日本の社会保障制度」などを活用し、社会保障制度の種類を分類できるよう指導する。
3学期	1	54	p.170-171	4 社会保障制度の課題	私たちは、どのような社会保障制度の課題に直面しているのだろうか。	①少子高齢化と社会保障制度の基本的な理解に基づいて、持続可能な社会保障制度と福祉社会のあり方を考察するために必要な知識を身につけている。 ②社会保障制度に関する知識を用いて、少子高齢化が進むなかでの社会保障制度の課題、持続可能な社会保障制度に向けての改善点についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③導入「あなたは社会保障に何を求める？」や図4「国の歳出における社会保障関係費の推移」などを参考にして、社会保障の給付と負担のあり方について課題意識を高めるよう指導する。また、p.172-173「持続可能な医療制度をどのように実現するべきか？」などを活用して、持続可能な医療制度を具体的に考察・構想できるよう指導する。
第2部 3章 4節 労働者の権利と雇用・労働問題					[節の問い] 私たちは、働きやすい労働環境の実現に向けて、どのような取り組みができるのだろうか。	①労働者の権利、雇用と労働に関する課題などについて理解し、知識を身につけている。 ②労働者の権利、雇用と労働に関する課題などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③労働者の権利、雇用と労働などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
3学期	1	55	p.174-175	1 労働者の権利	私たちは、働くうえでどのような権利が保障されているのだろうか。	①労働者の権利および制度に関する基本的な理解に基づき、労働者の権利（労働三権、各種労働法等）や女性と労働をめぐる問題について考察するために必要な知識を身につけている。 ②労働者と企業の関係についての理解に基づき、労働契約の考え方について説明できている。また、労働者の権利や制度のあり方についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③導入「もしもアルバイトでトラブルにあったら？」やp.178-179「求人票ってどう見るの？」などを活用し、労働者にはどのような権利が保障されているか、またなぜ保障されているかを具体的に考えさせる。また、Column「男性にも育児休業を」、図7「女性の年齢別労働力率」などを活用し、現代の労働環境について考察するよう指導する。
3学期	1	56	p.176-177	2 雇用と労働に関する課題	私たちの雇用や労働を取り巻く状況は、どのように変化しているのだろうか。	①現代の労働環境に関する基本的な理解に基づき、労働者の雇用や環境などの問題や課題について理解し、必要な知識を身につけている。 ②労働環境に関する知識を用いて、労働環境をめぐる課題を説明できている。人口減少社会における働きやすい労働環境、外国人労働者の受け入れなどの雇用や労働環境の変化についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③p.180-181「労働者の権利と義務はどうあるべきか？」などを活用し、労働者の果たすべき役割や守られるべき権利について、考察することができるよう指導する。
第2部 3章 5節 社会の変化と職業選択					[節の問い] 私たちは、就職に向けて産業構造の変化とどのように向き合っていけばよいのだろうか。	①産業構造の変化と職業選択、社会を支える産業とその変革などについて理解し、知識を身につけている。 ②産業構造の変化と職業選択、社会を支える産業とその変革などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③産業構造の変化と職業選択、社会を支える産業とその変革などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ㊦＝指導上の留意点・活用資料
3学期	1	57	p.182-183	1 産業構造の変化と職業選択	私たちが選択する職業と、産業構造の変化はどのように関わっているのだろうか。	①技術革新により産業構造が変化していくという基本的な理解に基づき、グローバル化やAIが進化していることから職業選択の幅を広げていく必要があることを理解し、必要な知識を身につけている。 ②産業構造の変化についての知識を用いて、現在の産業構造の高度化について説明できている。また、グローバル化やAI等の技術の進展が職業選択に変化を及ぼしていることについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦導入「技術の進歩でこれからの職業はようになる？」などを活用し、AIやロボットなどの技術がこれからの産業に与える影響について考察できるよう指導する。また図8「日本の産業別労働人口の割合の推移」などを活用して産業構造の変化について理解を深めることができるよう指導する。
3学期	1	58	p.184-185	2 社会を支える産業とその変革	私たちの社会において、各産業はどのような課題に直面しているのだろうか。	①日本の中小企業や製造業、農業に関する基本的な理解に基づき、中小企業や農業の現状、課題について理解し、必要な知識を身につけている。 ②中小企業や製造業、農業の基本的な知識を用いて、現状や課題について説明できている。また、各産業の強みと弱みについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦図3「製造業における大企業と中小企業」や図7「農業就業人口と農業総生産の割合の推移」などを活用し、各産業の現状を把握できるよう指導する。また、導入「日本の中小企業が世界で活躍？」などを活用し、中小企業の強みについて考察できるよう指導する。
第2部 3章 6節 経済のグローバル化					[節の問い] 私たちは、国際経済の持続的な発展に向けて、どのような取り組みができるのだろうか。	①国際経済のしくみ、国際経済制度のあゆみ、地域経済統合、グローバル化と自由貿易協定、国際経済の変化と課題、経済格差の是正などについて理解し、知識を身につけている。 ②国際経済のしくみ、国際経済制度のあゆみ、地域経済統合、グローバル化と自由貿易協定、国際経済の変化と課題、経済格差の是正などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ③国際経済のしくみ、国際経済制度のあゆみ、地域経済統合、グローバル化と自由貿易協定、国際経済の変化と課題、経済格差の是正などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
3学期	1	59	p.192-193	1 国際経済のしくみ	私たちが国家間で貿易を行っているのはなぜなのだろうか。	①国際経済に関する基本的な理解に基づいて、国際分業の意味、自由貿易の必要性、外国為替相場、国際収支に関する必要な知識を身につけている。 ②比較生産費説、外国為替相場、国際収支についてその内容を説明できている。また、これらの理解を踏まえて、自由貿易の推進についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦貿易による分業の利益については、図3「比較生産費説」を参考にする。国際収支と為替変動の具体的な影響と要因についての理解は、p.194-195「国際収支と為替レートの見方」などを活用する。
3学期	2	60	p.196-197	2 国際経済制度の歩み	私たちは、国際経済において、どのようなしくみをつくってきたのだろうか。	①戦後の国際経済の動向に関する基本的な理解に基づいて、為替相場安定や自由貿易推進のための国際機関とその制度やルールに関する必要な知識を身につけている。 ②国際機関の知識を用いて、為替相場安定や自由貿易推進のための制度やルールについて説明できている。また、これらの制度やルールの課題についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦導入「日本の戦後復興に国際社会はどう関わった？」や図3「戦後の国際経済体制と円相場の変化」などを活用し、具体的な題材を扱うようにする。
3学期	2	61	p.198-199	3 地域経済統合	私たちは、なぜ地域経済統合を形成しているのだろうか。	①地域経済統合の基本的な理解に基づいて、地域経済統合の現状や課題に関する必要な知識を身につけている。 ②地域経済統合の基本的な知識を用いて、EUを事例に発展過程と問題点について説明できている。また、EU以外の地域経済統合について、みずから調べて説明できている。 ㊦図4「世界の主な地域経済統合」などを活用して、それぞれの広がりや規模について確認できるよう指導する。
3学期	2	62	p.200-201	4 グローバル化と自由貿易協定	私たちの経済活動は、経済のグローバル化によってどのように変化したのだろうか。	①経済のグローバル化に関する基本的な理解に基づき、グローバル企業の展開と課題について理解し、自由貿易協定の動向について必要な知識を身につけている。 ②経済のグローバル化と自由貿易協定の基本的な知識を用いて、その影響と是非についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦p.208-209「外国企業の誘致による地域活性化を進めるべきか？」などを活用し、グローバル化が日本経済に与える影響を多面的・多角的に考察できるよう指導する。
3学期	2	63	p.202-203	5 国際経済の変化と課題	私たちは、国際経済の変化のなかで、どのような課題に直面しているのだろうか。	①新興国の台頭や近年の国際経済の動向に関する基本的な理解に基づき、国際経済の変化と課題について考察するために必要な知識を身につけている。 ②新興国台頭の背景と、近年の国際経済・金融危機に関する基本的な知識を用いて、国際経済におけるパワーバランスの変化とそれによって生じる課題についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦特に中国については、Column「中国によるインフラ開発の取り組みと課題」などを参考に、国際経済に及ぼす影響について理解を深めることができるよう指導する。
3学期	2	64	p.204-205	6 経済格差の是正	私たちは、経済格差を是正するために、どのような取り組みができるのだろうか。	①国際経済における経済格差に関する基本的な理解に基づき、経済格差の原因とその是正、先進国による発展途上国への支援の現状と課題について考察するために必要な知識を身につけている。 ②国際経済における経済格差に関する基本的な知識を用いて、経済格差の原因とその是正について説明できている。また先進国による発展途上国への支援のあり方についてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦発展途上国に対する経済援助のあり方については、導入「経済格差の問題にどう取り組むべきか？」や図7「ODAの種類」などを活用して、支援の意義や目的にも触れることができるよう指導する。
3学期	2	65、66	p.210-213	章の振り返り 第2部3章 私たちと経済		①市場経済の機能と限界、金融の働き、財政の役割と社会保障の課題、労働者の権利と雇用・労働問題、社会の変化と職業選択、経済のグローバル化などについて理解し、知識を身につけている。 ②市場経済の機能と限界、金融の働き、財政の役割と社会保障の課題、労働者の権利と雇用・労働問題、社会の変化と職業選択、経済のグローバル化などについてみずからの考えを形づくり、判断したことを表現している。 ㊦経済との関わりがあり解決が求められる諸課題への関心を高め、第3部の課題探究学習につながるよう指導する。

学期	月	時限	教科書 ページ	項目 (タイトル)	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/ ㊦＝指導上の留意点・活用資料
第3部 持続可能な社会づくりの主体となる 私たち					[部の問い] 持続可能な社会を形成して いくために、さまざまな解 決すべき課題に対して私た ちはどのように取り組んで いけばよいのだろうか？	①第1部、第2部の学習を振り返りながら、地域の創造、よりよい国家・社会の構築および平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ②第1部、第2部の学習を振り返りながら、課題の解決に向けて事実をもとに協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠をもとに自分の考えを説明、論述している。 ③第1部、第2部の学習を振り返りながら、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家・社会および国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体として、現代社会にみられる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。
3学期	3	67-70	p.216- 225	課題探究学習		①これまでの学習で身につけた知識を活用し、みずからの関心に基づいて、より学習を深めることができる課題を設定している。 ②課題に関する統計や図表等の情報を整理し、それに基づきみずから考えを形づくり、判断したことを整理して、レポート等で表現している。 ㊦課題に関連した統計や図表の収集・読み取りを通じて、主張を裏づける説得力のある根拠を示すことができるよう指導する。